

平成 21 年度 シラバス	学年・期間・区分	4年次・通年・A群
	対象学科・専攻	情報工学科
情報理論 (Information Theory)	担当教員	榎園 茂 ( Enokizono, Shigeru )
	教員室	情報工学科棟 4階 ( Tel. 42-9097 )
	E-Mail	enokiz@kagoshima-ct.ac.jp
教育形態 / 単位の種別 / 単位数	講義 / 学修単位[講義] / 2単位	
週あたりの学習時間と回数	〔授業(100分) + 自学自習(80分)〕 × 30回	
〔本科目の目標〕 情報は物質、エネルギーと共に工学を支える3本の柱として重要である。本科目では情報とは何かという根源的な問題から説き起こし、情報量の定義、さまざまな情報源、情報源の符号化、通信路の性質などについて体系的に学び、シャノンの通信理論を理解する。		
〔本科目の位置付け〕 本科目の理解には、確率や対数の計算に関する数学的な基礎知識が必要である。本科目を修得した場合、データ圧縮理論などを理解する基礎となる。		
〔学習上の留意点〕 情報理論ではエントロピーという概念と定義式を使って、通信に関する理論を展開していく。毎回きちんと講義ノートを取り理論式の展開を追っていくことが大切である。要点をまとめたプリントを配布する場合がある。プリントは順を追ってきちんとノートに貼付しておくこと。講義は教科書に沿って進めるので毎回1時間程度予習し復習することが大切である。小テスト、レポートなども予告の上実施する。出席も重視する。		
〔授業の内容〕		
授業項目	時限数	授業項目に対する達成目標
1.序論	4	情報理論とは何か、情報の符号化、対数の計算の復習する。
2.情報量と情報源 前期中間試験	10	情報量の定義、無記憶情報源、拡大情報源について理解し説明できる。 授業項目 1.2.の前半部について達成度を確認する。
3.符号の性質 前期末試験	8	エントロピーの性質、マルコフ情報源、エルゴード性、随伴情報源、マルコフ情報源の拡大などについて理解し説明できる。
4.情報源の符号化	8	一意符号と瞬時符号、瞬時符号の構成法を理解して、判定できる。 授業項目 2.の後半部～3.について達成度を確認する。
5.通信路と相互情報量 後期中間試験	6	平均符号長、シャノンの第一定理、拡大情報源を考えない符号化、二元コンパクト符号の構成法、ハフマン符号のコンパクト証明、r元コンパクト符号、符号の効率と冗長度などについて説明できる。
6.離散的通信路の信頼性向上 後期末試験 試験答案の返却・解説	10	通信路の定義、相互情報量とその性質を理解し計算できる。 授業項目 4.～5.の前半部について達成度を確認する。
	6	雑音のない通信路と確定的な通信路、縮退通信路、通信路容量を理解する。 誤り率と判定規則、通信路の信頼性向上、ハミング距離、シャノンの第二定理を理解する。 授業項目 5.の後半部～6.について達成度を確認する。 各試験において間違った部分を理解できる。
〔教科書〕 情報理論入門 アブラムソン著 宮川 洋訳 好学社		
〔参考書・補助教材〕 情報理論 宮川 洋 コロナ社		
〔成績評価の基準〕 中間試験および期末試験成績 (70%) + 小テスト等 (30%) - 授業態度等 (上限30%)		
〔本科(準学士課程)の学習教育目標との関連〕 3-c		
〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕 3-3		
〔JABEEとの関連〕 (c), (d)(1)		